

考古学B 高倉 洋彰	履修年次	クラス	単位	学期
	2-4		2/4	後期/通年
備考： 考古学				

### 【講義の概要】

授業の到達目標及びテーマ： 農耕社会の成熟は古代の日本の国家形成をうながす。弥生時代後期から古墳時代の考古資料を分析しながら、日本における古代国家の形成過程をたどりながら、考古学という学問の考え方や方法を理解させる。

#### テーマ 古代国家の成立

授業の概要： 考古学Aで日本列島における農耕社会の成立を論じたが、この非等質な社会には統率者が存在し、その権威が拡大・定着するとともに、身分格差のある社会が出現してくる。権威は権力となり、やがて唯一の存在である大王を生み出し、日本列島とそこに住む民は彼の絶対的な権力に服従することになる。こうした権威・権力の成長には中国や朝鮮からの影響が強く反映している。そこで農耕社会が古代国家に変質していく過程を、考古学による解明の方法を通じて理解できるような授業を行い、学問の面白さ楽しさに触れることにする。

準備学習等についての具体的な指示： 予習によってテキストの内容を理解しておく。日本語のテキストであるから油断するが、文章に書いている語句・単語には深い内容があり、文字からだけでは理解できないものが多い。テキストを見るのではなく、読みかつ吟味しておくことが大切である。

#### 授業計画：

第1回	環濠集落の時代	テキストページ2～24
第2回	倭国の乱	24～42
第3回	前方後円墳の源流	42～54
第4回	邪馬台国の登場	56～65
第5回	前方後円墳体制の成立	65～70
第6回	三角縁神獣鏡の謎	70～82
第7回	東アジアの大変動	84～91
第8回	首長系譜の断絶と政変	92～104
第9回	豪族の居館と民衆の村	106～126
第10回	支配組織の整備	126～138
第11回	前方後円墳の終焉	138～147
第12回	律令国家と都市	150～157
第13回	都市の発達	157～164
第14回	国家をめぐる議論	166～180
第15回	民族形成と国家	181～193

### 【テキスト】

都出比呂志『古代国家はいつ成立したか』岩波新書1325、2011年

### 【参考書等】

その都度関連する論文や資料を適宜コピーし配布する。

### 【成績評価の方法】

学期末に実施する筆記試験の成績（60%）、授業参加への積極性（30%）、受講態度（10%）の割合で評価する。

### 【履修上の注意】

授業に対する積極性が必要。欠席に対しては厳しく対応する。